

# 平成21年度学院卒業式

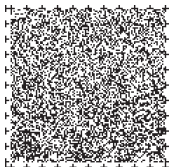
学院事務室

去る3月9日(火)、当センター学院講堂において、平成21年度学院卒業式を開催しました。式は厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課施設管理室 三尾谷室長補佐を始め、多数のご来賓や当センターの幹部職員のご参列をいただき、おごそかな雰囲気の中、始まりました。

まず、岩谷総長より卒業生57名の一人一人に対し卒業証書が授与されました。卒業生達は自分の名前が呼ばれると緊張の面持ちで壇上に上がり、卒業証書を受け取っていました。その表情からは、2年間あるいは3年間の課程を無事に終えたことに対する誇らしさや喜びがうかがえました。

卒業証書授与のあと、中島学院長の式辞がありました。式辞の中で学院長は、「入学の時に皆さん方一人一人に面接をしている。皆さんに共通していたのは、リハビリテーションの道に進むという明確な意志と勇気をもって、ということであり、そのような皆さんを称えたい。皆さんがこれから乗る船はひとりぼっちで、舵をきる判断も自分でしなければならない。これからの人生で出会うであろう重大な選択の機会に、正しい判断ができるよう常日頃から将来をよく見つめてほしい。皆さんは限りのない大きな未来をもっている。誇るに足る人生を送ってほしい。皆さんには一歩を踏み出す勇気の芽生えが見てとれる。皆さんを『勇気を持った人』として送り出したい。」と述べられました。

中島学院長の式辞のあと、三尾谷室長補佐が厚生労働大臣の祝辞を代読されました。祝辞では、「既に卒業された多くの諸先輩達に続き、地域社会で信頼される専門職として、常に支援を必要とされる方の目線に立って一層の研鑽を重ねられ、ご活躍されることを期待しております」とはなむけの言葉が述べられました。



その後、岩谷総長から祝辞がありました。総長は祝辞の中で、「志

を同じくする先輩として皆さんの巣立ちを心から歓迎します。」と述べられました。そして、「学院で学んだ知識と技能をもとに、日々の仕事を通して専門職としての力をつけていかなければならない。専門分野はもちろんのこと、できる限り専門外のことや社会のことを学び、病気と機能については冷静に論理的に、病い、患いについては優しい気持ちで理解できるように努力してください。」と述べられました。

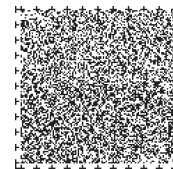
引き続き、来賓紹介及び祝電披露が行われた後、リハビリテーション体育学科1年の熊谷俊介さんが、卒業生を送る言葉として「学院で共に学んだ多くの仲間がいることを忘れずに、障害のある方の社会復帰、日常生活の自立、心理面での安定がなされていくために、ここで培われた技術や知識をさらに磨きながら、全国各地で活躍されることを心より願っております。」と述べました。

これを受けて、義肢装具学科2年の宮島美紀さんが卒業生を代表し、別れの言葉を述べました(文末に全文掲載)。

最後に言語聴覚学科1年 中川弘子さんのピアノ伴奏により、全員で蛍の光を斉唱し、閉式のことばで式を終えました。途中からは雪が交じるあいにくの空模様でしたが、卒業生達のあでやかな振袖姿や袴姿のおかげで、おごそかな中にも華やかさが印象に残る卒業式でした。

卒業式に引き続き、卒業生主催による謝恩会が学院6階の大研修室で行われました。謝恩会では、リハビリテーション体育学科の学生による華麗な踊りや勇壮な太鼓のアトラクションが披露されるなどして、一同和気あいあいの楽しいひとときを共有することができました。

卒業生皆様方がそれぞれの進路において、今後、益々ご活躍されますよう祈念します。



## 別れのことば

冬の寒さも和らぎ、春の日差しを感じる季節を迎えた今日、私たち卒業生57名は新たな希望を胸に学院を卒業いたします。

晴れてこの日を迎えることができましたのも、岩谷総長をはじめ、中島学院長、各学科の諸先生方、外部・内部の講師の先生方、当センターの職員の皆様、ならびに私たちが出会った数多くの方々の温かいご指導とご支援、ご配慮のお陰です。そして、本日はこのような盛大な卒業式を挙げていただき、ありがとうございます。卒業生一同、深く感謝しております。

満開の桜のもと、期待と希望に胸を膨らませ、この会場で入学式を迎えた日が昨日のこのように思い出されます。それは全国各地から集まった、同じ志を持つ仲間たちと初めて出会ったときでした。

はじめは専門的な知識もなく、ただ与えられたカリキュラムをこなすことで精いっぱいでした。学院の授業では数多くの理論や技術を学び、実習では様々な貴重な体験をさせていただきました。ときには授業についていけず自信をなくしたり、目の前の課題に追われて余裕がなくなり、入学当初に描いていた夢や希望を忘れかけてしまいそうになったこともありました。しかし、そのようなときは仲間同士励まし合い、先生方に温かいご指導をいただいて、乗り越えることができました。

また、球技大会や体育祭、交流会で他学科の学生と話をする機会がありました。学んでいる専門分野は異なりますが、皆、同じように大変な思いをして、ひたすら目標に向かって頑張っていることを知り、よ

りいっそう心強く感じました。このような恵まれた環境のなかで2年もしくは3年間学ぶことができて、本当に有難く思っております。

明日から私たちは、それぞれの新しい道を歩み始めます。まだあまり信じられませんが、あと1か月もしないうちに実際に臨床の場で活動することになります。新しい生活に期待と希望に胸を膨らませている一方で、不安な気持ちもあります。壁にぶつかることもたくさんあると思います。しかし、そんなときはこの学院で学んだことを思い出し、学院の卒業生であることを誇りに、ひとつひとつ乗り越えていきたいと思っております。まだ経験もなく、ゼロからのスタートですが、常に初心を忘れずに謙虚な気持ちで、日々取り組んでいきたいと思っておりますので、今後とも諸先生方や多くの皆様の、変わらぬ御指導、御鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

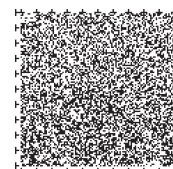
在校生の皆さん、短い間でしたが、一緒に学生生活を送ることができて楽しかったです。この先大変なこともあるかと思いますが、支えてくださる先生や、同じ目標を持った仲間がいるということをお忘れずに頑張ってください。いつの日か同じ臨床の場で働く同志として、会える日を楽しみにしています。

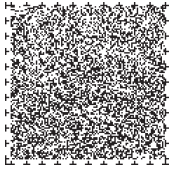
最後に、学院の益々のご発展と、本日ご臨席賜りました皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げ、別れのことばとさせていただきます。

平成22年3月9日

卒業生代表

義肢装具学科 宮島 美紀

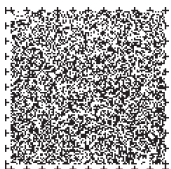


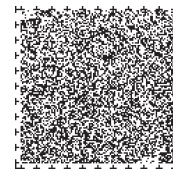


卒業証書の授与



卒業生も飛び入り参加しての和太鼓演奏（謝恩会）





# 平成22年度障害者福祉関係職員 実務研修会の開催について

学院事務室

国立障害者リハビリテーションセンター学院において実施予定の平成22年度障害者福祉関係職員実務研修会は、別表のとおりです。

多くの関係者の方々の応募をお待ちしております。



養成・研修棟



視覚障害生活支援研修会



盲ろう者通訳ガイドヘルパー指導者研修会

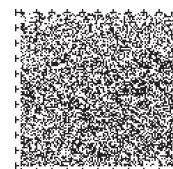
## 研修会実施風景 (一部研修会のご紹介)

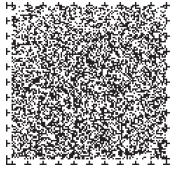


視覚障害者用補装具適合判定医師研修会



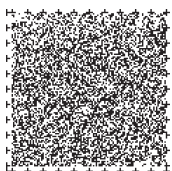
義肢装具士研修会

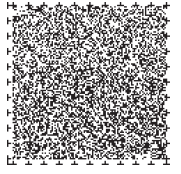




〔開催順〕

	研 修 会 名	定員(名)	研 修 期 間	日数
1	リハビリテーション心理職研修会(基礎)	20	5月19日(水)～5月21日(金)	3
2	視覚障害生活支援研修会	20	5月26日(水)～5月28日(金)	3
3	盲ろう者通訳ガイドヘルパー指導者研修会 (前期-後期)	20	6月7日(月)～6月11日(金) 11月15日(月)～11月19日(金)	10
4	相談支援従事者指導者養成研修会	207	6月16日(水)～6月18日(金)	3
5	高次脳機能障害支援事業関係職員研修会	200	6月30日(水)～7月2日(金)	3
6	身体障害者更生相談所身体障害者福祉司 等実務研修会	60	7月7日(水)～7月9日(金)	3
7	補聴器適合判定医師研修会	76	7月12日(月)～7月16日(金)	5
8	視覚障害者用補装具適合判定医師研修会	20	8月4日(水)～8月6日(金)	3
9	義肢装具士研修会	10	8月24日(火)～8月27日(金)	4
10	手話通訳士専門研修会	20	8月30日(月)～9月3日(金)	5
11	サービス管理責任者指導者養成研修会	292	9月8日(水)～9月10日(金)	3
12	リハビリテーション心理職研修会(応用)	20	9月15日(水)～9月17日(金)	3
13	作業療法士研修会	20	10月6日(水)～10月8日(金)	3
14	音声言語機能等判定医師研修会	30	10月20日(水)～10月22日(金)	3
15	リハビリテーション看護研修会	50	10月27日(水)～10月29日(金)	3
16	理学療法士研修会	20	11月10日(水)～11月12日(金)	3
17	更生相談所長等研修会	50	11月18日(木)～11月19日(金)	2
18	言語聴覚士研修会	30	11月24日(水)～11月26日(金)	3
19	義肢装具等適合判定医師研修会	100	12月6日(月)～12月10日(金)	5
20	福祉機器専門職員研修会	60	1月25日(火)～1月28日(金)	4
21	介助犬・聴導犬訓練者研修会	20	2月14日(月)～2月18日(金)	5





## リハセンターに飛来する野鳥を友に

元理療教育部長 見原 捷三

### オシドリ (鴛鴦)

オシドリは、全長が約50cmで雄は橙色の大きな銀杏羽をもったカモ類です。

繁殖地は、中国東北部からウスリー、サハリンで、日本でも北海道、本州、沖縄で繁殖しています。

棲息地は、山間の溪流や山地の湖等の余り開けたところは好まず、木陰に隠れるようにして、他のカモ類等と違って木に止まり水の上をねぐらとしています。

餌は、カシヤナラ類等のドングリを好みますが、この他に水棲昆虫等の動物質を食べることもあります。

繁殖期の4月から7月になると、水辺の樹洞に枯草等で皿形の巣を作り7個から12個の卵を産み、約30日で孵化します。孵化した雛は、すぐに歩くことが出来て、巣穴からダイビングして親鳥のとこ

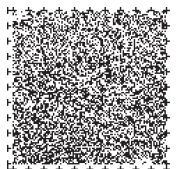
ろに向かい勇気ある行動をします。

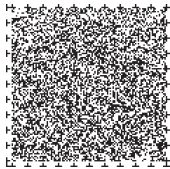
越冬期には、数10羽から数100羽の群れを作ることもあり、市街地の公園でも観察出来ます。

鳴き声は、雄が「ケェケェ」と鳴くのに対して雌は「クァッ」と少し濁った声で鳴きます。

このオシドリは、<sup>つがい</sup>番の絆が非常に強くて、2シーズン両方とも生き延びた場合は、再び前年の相手と番になり寄り添っているところがよく見られることから、仲の好い夫婦を「オシドリ夫婦」や「鴛鴦の契り」等の言葉で古くから親しまれている鳥です。

また、万葉集巻20にオシドリのことを「磯の浦に常喚び来棲む鴛鴦の惜しき吾が身は君がまにまに」([大意] 池の磯辺にいつも来て呼びかわして住むオシドリの名のように、惜しい私の身ですが、あなたの御心次第でどのようにでもいたします)と詠まれています。





# 平成21年度

## リハビリテーション実施状況（2月報告）

### 1 利用者状況

#### (1) 昼間実施のサービス状況：月末人員

課 程		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
自立訓練（機能）	H.21	15	17	19	25	27	26	25	24	26	25	26		23.2
	H.20	11	13	13	15	11	12	12	13	14	18	18		13.6
自立訓練（生活）	H.21	10	9	9	7	6	10	9	10	8	9	10		8.8
	H.20	10	10	11	11	8	10	11	10	8	10	8		9.7
就労移行支援	H.21	56	55	53	69	63	74	66	52	66	55	60		60.8
	H.20	50	54	49	61	57	62	75	59	61	66	60		59.5
就労移行支援（養成施設）	H.21	78	77	76	75	75	75	75	75	75	75	75		75.5
	H.20	85	84	84	83	82	81	81	81	80	80	56		79.7
合 計	H.21	159	158	157	176	171	185	175	161	175	164	171		168.4
	H.20	156	161	157	170	158	165	179	163	163	174	142		162.5

#### (2) 施設入所支援サービス状況：月末人員

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
施設入所支援	H.21	191	186	182	192	187	198	191	181	192	189	191		189.1
	H.20	189	196	194	206	194	200	210	202	200	208	185		198.5

#### (3) 独自事業等：月末人員

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
職業リハビリセンター	H.21	69	64	64	59	62	57	63	65	63	72	66		64.0
自動車訓練	H.21	14(9)	12(8)	15(12)	17(12)	12(6)	14(8)	12(6)	15(7)	14(8)	16(11)	14(7)		14.1(9)
再理療教育クラス	H.21	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0		0.8
臨床研修コース	H.21	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5		5.0

※1 職業リハビリセンターについては施設入所支援を利用している者の内数である。

※2 ( ) は他の事業に属さない者の数である。

#### (4) 利用者数：月末人員

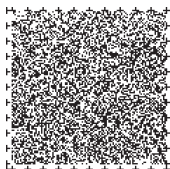
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
支援サービス	H.21	228	222	221	235	233	242	238	226	238	236	237		232.4
独自事業	H.21	14	13	17	17	12	13	11	13	14	17	12		13.9
利用者数総計	H.21	242	235	238	252	245	255	249	239	252	253	249		246.3

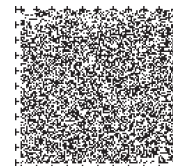
※1 支援サービスについては昼間実施サービス及び職業リハビリセンターの利用者合計数である。

※2 独自事業については自動車訓練のみの利用者、再理療教育クラス及び臨床研修コースの利用者の合計数である。

### 2 入院患者の状況（1日平均）

区 分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
総 数	H.21	121.0	107.4	102.5	102.2	107.7	105.3	95.6	88.3	81.6	89.5	100.0		99.7
	H.20	128.4	135.7	144.0	130.3	123.6	128.6	124.0	116.8	116.0	118.6	125.0		126.3
一 般	H.21	119.4	104.8	100.5	102.1	107.0	105.3	94.7	88.3	81.6	89.4	98.7		98.9
	H.20	128.0	135.6	142.7	130.3	123.6	127.5	122.5	115.7	114.8	117.0	122.8		125.3
利 用 者	H.21	1.6	2.6	2.0	0.0	0.7	0.1	0.8	0.0	0.0	0.1	1.3		0.8
	H.20	0.3	0.0	1.2	0.0	0.0	1.1	1.4	1.1	1.1	1.6	2.2		1.0





### 3 外来患者の状況（1日平均）

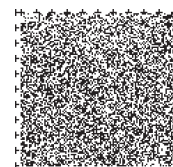
区 分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平 均
総 数	H.21	154.9	162.1	151.0	152.6	147.9	151.5	146.6	145.2	151.5	143.6	135.3		149.1
	H.20	161.7	168.2	163.3	165.2	153.9	169.7	150.6	164.1	165.8	158.8	159.7		161.0
一 般	H.21	143.0	147.6	138.8	139.7	136.1	137.5	134.0	132.4	139.0	123.2	117.5		135.2
	H.20	149.6	154.1	150.0	151.4	141.1	155.2	138.1	151.3	150.7	143.2	145.9		147.4
利 用 者	H.21	11.8	14.3	12.2	12.9	11.7	14.0	12.6	12.7	12.5	20.3	17.7		13.8
	H.20	12.0	14.1	13.3	13.7	12.8	14.4	12.4	12.8	15.1	15.6	13.8		13.5

### 4 見学者の状況（実人員）

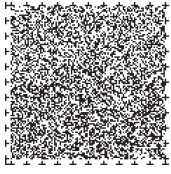
区 分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平 均
医 療	国 内	113	212	341	182	396	440	59	63	46	138	146		182.9
	海 外	0	25	15	11	6	14	5	5	52	34	23		16.3
教 育	国 内	3	9	19	48	31	3	76	30	1	1	25		26.8
	海 外	0	0	9	0	0	0	0	11	1	2	0		1.9
福 祉	国 内	139	182	99	99	12	76	198	244	49	99	181		131.3
	海 外	1	0	29	10	2	6	0	3	13	2	1		5.6
職 業	国 内	22	0	0	0	3	29	0	0	0	0	22		6.3
	海 外	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0		0.2
そ の 他	国 内	54	19	72	35	15	57	16	74	38	92	6		41.2
	海 外	0	1	15	2	9	6	1	6	8	3	1		4.4
うち障害者 (再 掲)	国 内	4	5	13	20	1	2	1	1	0	3	21		6.0
	海 外	1	0	3	0	0	3	0	0	7	0	0		1.2
平 成 2 1 年 度 合 計	国 内	331	422	531	364	457	605	349	411	134	330	380		388.6
	海 外	1	26	68	23	19	26	6	25	74	41	25		28.3
	計	332	448	599	387	476	631	355	436	208	371	405		416.9
平成20年度合計		324	418	644	557	498	516	675	245	155	226	370		420.7

### 5 学院生の在籍状況（月末現在）

学 科	学 年	人 数
言 語 聴 覚 学 科	1 年	29
	2 年	31
	小 計	60
義 肢 装 具 学 科	1 年	9
	2 年	9
	3 年	8
	小 計	26
視 覚 障 害 学 科	1 年	4
	2 年	4
	小 計	8
手 話 通 訳 学 科	1 年	12
	2 年	12
	小 計	24
リハビリテーション体育学科	1 年	3
	2 年	3
	小 計	6
合 計		124







#### センターのロゴ

センターのロゴは、国際障害者年を記念し、入所者・職員から募集した作品の中から選定されたものです。

このロゴは、

- 1 リハビリテーションセンターを包む、リハビリに対する強い意欲・意思・たゆまざる努力、そして友情と信頼、
- 2 リハビリテーションセンターを出発点として、未来にまた広く社会各方面に向かって伸びようとする入所者・職員の姿、
- 3 手話の指、点字を読む指、職業、職能、理療に励む力強い5本の手指

をイメージ化したものです。

また、NRCO は NATIONAL REHABILITATION CENTER FOR PERSONS WITH DISABILITIESの頭文字です。

制作者 住田律夫（昭和56年制定）



上のシンボルマークは、WHO(世界保健機関)のマークです。

WHO (World Health Organization) とは、国連の仕事のうち、保健衛生の分野を受け持つ専門機関であり、その目的は、全人類の健康を守るために、世界の国々が力を合わせて努力しようとするものです。

国立障害者リハビリテーションセンターは、WHO指定研究協力センターの指定を受け、国際協力を行っています。

#### 「国リハニュース」編集事務局

国立障害者リハビリテーションセンター管理部企画課

〒359-8555 埼玉県所沢市並木4-1

TEL 04-2995-3100 FAX 04-2995-3102

ホームページアドレス <http://www.rehab.go.jp/>

(国リハニュースはホームページに掲載されています)

※本誌へのご意見、ご要望等がございましたら、上記編集事務局宛

FAX又は、Eメール (kikakuka@rehab.go.jp) をお寄せ下さい。

